

テーマ2「One Team Work Project ~工業化学科日本一~」

1 目的

- (1) 日頃から競い合ってきた3校が共通の目的を「日本一の化学分析技術者」と定め、One Team となることで相乗効果により県全体のレベルを底上げする。全国大会で入賞することだけでなく、高いレベルで化学分析技術を習得し、上級学校への進学など、進路実現へとつながる活動とする。
 - (2) 大学との連携により、デジタル化対応産業教育設備装置の原理から実践的で実用的な応用方法を学ぶ。また、3校で情報を共有しながら、それぞれの学校で生徒の深い学びへとつなげる。
- 以上の2項目について工業化学科の魅力を、県内をはじめ全国に発信していきたい。

(3) LC-MS 講習会の実施(株式会社 島津アクセス)



2 チームを構成する高校

- 崇城大学工学部ナノサイエンス学科
玉名工業高等学校 工業化学科
八代工業高等学校 工業化学科
熊本工業高等学校 工業化学科

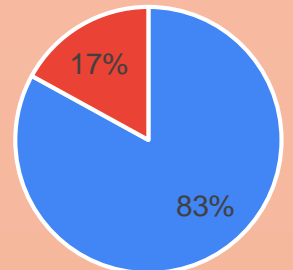
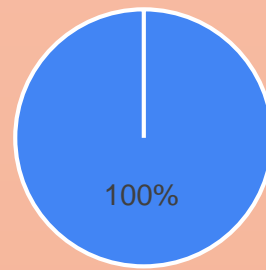
3 実施期間

令和4年4月から令和5年3月

○実施後の振り返り

実施後アンケート

Q.各学校で2回に渡って受けた支援指導は役に立ちましたか。 Q.3校で一緒に研修を行ったことについてどう思いましたか。



■とても役に立った

■有意義だった ■まあまあ有意義だった

4 取組内容

- (1) 崇城大学工学部ナノサイエンス学科による支援指導
玉名工業、八代工業、熊本工業高校の各校が2日に渡って、化学分析の技術を磨く生徒に崇城大学の西田教授から支援指導を行っていただいた。

Instagramで発信した取組内容



(2) 3校での合同練習会の実施(会場:熊本工業高校)



Q.具体的にどのようなことを学んだか。また、どう役立てることができたか。どうして役に立たなかった等

- ・ 共洗いの回数など時間内に終わることが出来、かつ正確な値をだすため、細かな部分まで教えていただいた。(指導者)
- ・ 県大会の復習が出来ました。どこが出来ていなかったのかを生徒達と認識することが出来ました。(指導者)
- ・ 時間短縮のコツを教わり早くなった
- ・ 的確なアドバイスと県大会とここが変わっているという比較されたプリントがあってとても役に立ちました。
- ・ 大会を終えてのミス、やらないほうが良いことを来年の改善に繋がるので。
- ・ 本番での良かった点悪かった点が判明した。

Q.県内の工業化学科3校で一緒に研修を行ったことについてどう思いましたか。

- ・ 生徒に指導する内容の共有が出来た。指導者が代わったりするのでこの研修での記録簿を作っておいた方がいいと思う。選手も毎年代わっていくので一からの指導になる。(指導者)
- ・ ものづくりに挑戦する子供達は、ライバル意識を持ちながら同じ目標に向かうチームであると考えています。全国という目標に一人ではないと感じているだけでも心強いと思う。(指導者)
- ・ 3校で研修をして、初めて見る人達と一緒にだったので少し緊張した。
- ・ 他校の生徒の技術の高さを知れたから
- ・ 色々な人の意見を聞いて見直すことができてから。
- ・ 他の学校の人の意見を聞くことができ、より良い実験に繋がったと思うから。
- ・ 他の高校の大会へ向けての準備、練習の状況がしれたから
- ・ 他の学校と自分の学校を比べて自分ができていないところを知ることができたこと
- ・ ライバルをより近くで意識することができた。